

広 報

# ふじかわ

2 月号

昭和56年 2月20日発行

No. 235

## 町のメモ

昭和56年 2月1日現在

人口	16,996人
増減	- 2人
男	8,434人
女	8,562人
世帯数	4,282世帯
面積	31.09 <sup>㍴</sup>

富士川町 総務課



駅周辺の防災体制が万全に

(表紙のことばは2ページに)

町の今年の目標  
「笑顔であいさつ明るい町に」

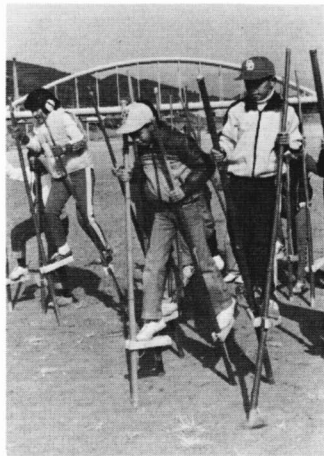
# づくりをめざして 自主防問題まで

## 「県民会議」から

「住みよい町づくりをめざして」をテーマに、昨年11月7日(金)蒲原町文化センターで、庵原三町の住民を対象として県民会議が開かれました。同会議は、県の広聴事業の一環として行われたもので、地域の共通する課題を私たちみんなで話し合い「私たちができることは私たちの手で」という考え方のもとに、ここに住む私たちが本当に望む方向は何

かを見出すとともに、生の声を今後の施策に反映しようとするものです。当日は、私たちの代表者三十八人(富士川町十二人)と県・町の関係者が出席、午前中は三ブロックに分かれ分科会、午後は全体会議の後、広聴集会が行われました。そこで今月は、全体会議に報告された各分科会の内容と広聴集会を取上げてみました。

国鉄富士川駅周辺地域の防災体制を充実するため、町では昭和55年度防災事業の中で一番の大事業である、同駅西口広場への地下式百斗型耐震性防火貯水槽の建設に本年1月16日から着手、2月下旬には完成予定である。同工事は約一千万円がかけられ、PCプレハブ貯水槽が用いられている。この貯水槽は高さが約六メートル、直径が約四・五メートルの円筒形で、普通の鉄筋に比べて十倍以上の強度を持つといわれている。また、線が防水性の水密コンクリートを締めつけ造られているため、強度や弾力性があり、地震による変動、衝撃に強い。これに加え、工場で生産した部材を建設地で昔のタル作りの要領で組み立て埋設するため、工事が短期間ですむ特徴がある。この広報2月号がみなさんの手に渡るころには、貯水槽本体はすべて地下にもぐり、地表にはマンホールが見えるだけとなるだろう。



竹馬って楽しいな  
1月15日、河川敷スポーツ広場とダンプ専用道路を開放し「新春富士川子どもつどい」が開かれた。中でも親子で作る竹馬に人気が集中し、500組用意した青竹もすぐに売切れ。

が必要である。簡単なことであるが「行ってらっしゃい」「お帰りのなさい」を子どもが返事するまで繰り返して、あいさつができるようになったという例も発表された。子ども会の活動については、最近テレビ、塾などの影響で、子ども同士の集りが少なくなり、横のつながりがなくなっている。また活動自体も、大人ペースになつていないか反省して見る必要があると思う。スポーツ少年団でも母親が応援するのは良いが、応援過剰となつてしまふことが目立つ。さらに、地域ぐるみで子どもを暖く見守っていくことが必要である。由比町では「あいさつ道路」を作つて、知らない人にも声をかけているという例も紹介されたが他人の子どもでも注意する勇気を持ちたい。

最後に家庭と学校の関係であるが、常に連携を保ちながら、両者が一体となり子どもへのしつけを進めていくことが必要である。

### 第1分科会

#### よその子どもしかる勇気を

報告者 望月芳信さん(由比町)  
家庭内の子どものしつけに悩んで話し合い、その概要は次のとおりです。

子どものしつけに関連し、母親は育児にプロ意識を持つことが必要である。素直な明るい子どもは家庭からということで、幼児の頃からの教育が必要であり、赤ちゃんの頃から「あいさつ」を繰り返すといった親の姿勢が望まれる。子どもは常に親の姿を見ているものだから、その働いている姿を見せ

るなどし、存在感や価値感を認識させてやる必要がある。父親や母親の仕事も教えてやったり「偉いんだ」ということを話してやることも必要である。特に共働き家庭では、手作り弁当にしたり、夕食の団らんなどの時、常に親子のきづなを保つていくことが大切である。親子が互いに信頼し合つて、何でも話し合える暖かい家庭を作っていくことが重要なことであるし、親が子どもに近づいて上手にほめたり、しかつたりすること

が必要である。簡単なことであるが「行ってらっしゃい」「お帰りのなさい」を子どもが返事するまで繰り返して、あいさつができるようになったという例も発表された。子ども会の活動については、最近テレビ、塾などの影響で、子ども同士の集りが少なくなり、横のつながりがなくなっている。また活動自体も、大人ペースになつていないか反省して見る必要があると思う。スポーツ少年団でも母親が応援するのは良いが、応援過剰となつてしまふことが目立つ。さらに、地域ぐるみで子どもを暖く見守っていくことが必要である。由比町では「あいさつ道路」を作つて、知らない人にも声をかけているという例も紹介されたが他人の子どもでも注意する勇気を持ちたい。

### 第2分科会

#### ごみのリサイクルを考える

報告者 笹間昭恵さん(由比町)  
まず由比町の三婦人団体で実施している、町をきれいにする運動の事例が紹介された。これによると、ポスターの作成、毎月の清掃日の設定、ごみを出さない運動などをやっている。その中でも過大包装をやめようということで、消費者サイドでは紙袋をもらわない運動をしており、小売店側もそうした運動を歓迎し、その利益を何らかの形で還元してもよいという話が出た。

の見学の話も出されたが、もう一度ごみを見直す必要があるということ、なるべくごみを減らす、使えるものは使い、畑で処理できるものは処理するなど、リサイクルを考えていくことが必要とこのとだった。

では関心が高まっているが、一歩外に出た場合のごみに対する考え方をもっと変えていく必要があるのでは。そして、先ず身近なことから手をつけ、小さな地域からゆるゆるコミュニティ活動を進めていく中で、大きな運動に広がっていく方がよいのではないか。

最後に、この会議を有意義なものとするため、地域へ帰って各種団体との話し合いを進め、さらに広く浸透を図るため、仮称「美化運動推進協議会」を設立することを全員で決議した。

また、富士川クリーンセンター

の報告者 望月貢さん(富士川町)

とが必要である。そのためにも、地域の中の寝たきり老人や病人、赤子のいる家庭をリストアップしたいという意見や、自主防災組織の会費を徴収することなどにより

のリーダーについてもみんな育てていくことが必要であることなどが話し合いの焦点となった。

# 住みよい庵原郡 子どもへのしつけから

また、富士川クリーンセンター

とが必要である。そのためにも、地域の中の寝たきり老人や病人、赤子のいる家庭をリストアップしたいという意見や、自主防災組織の会費を徴収することなどにより

のリーダーについてもみんな育てていくことが必要であることなどが話し合いの焦点となった。



また、富士川クリーンセンター

とが必要である。そのためにも、地域の中の寝たきり老人や病人、赤子のいる家庭をリストアップしたいという意見や、自主防災組織の会費を徴収することなどにより

のリーダーについてもみんな育てていくことが必要であることなどが話し合いの焦点となった。



その他では、訓練の方法などについて一工夫し、みんなが参加できる日や場所を選んで、地域の現状に合わせて繰返し実施するこ

とが必要である。そのためにも、地域の中の寝たきり老人や病人、赤子のいる家庭をリストアップしたいという意見や、自主防災組織の会費を徴収することなどにより

のリーダーについてもみんな育てていくことが必要であることなどが話し合いの焦点となった。

昨年9月1日の地震防災訓練

広聴集会

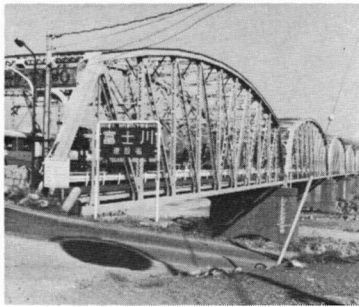
富士川橋の渋滞解消を

広聴集会には九人が発言に立ち十一件の意見・要望が出されました。そこで、その中から主なものを抜粋し、紹介することにしました。

質問—最近では、先生も何かと多忙になり、子どもと遊んだり、クラブ活動を指導してくれることを好まなくなっているように思われます。子ども会にしても、昔は

かなり先生が面倒をみてくれたと思います。待遇上のこともあろうかと思いますが、よろしく指導をお願いいたします。

中部教育事務所指導主事—放課後は子どもたちを地域へ帰して、もっと地域の活動につかせて欲しい



架替えが叫ばれる富士川橋



一中横の警察官幹部派出所

を設置することは可能でしょうか。また、それは国や県の補助対象となりうるのですか。

それから、地震が起こった後の医療体制の整備についてはどう進めていくのですか。

質問—中学生の各部活動について、県ではあまり奨励していないと聞いていますが、基本的にはどう考えているのですか。

質問—同報無線に因連してうかがいます。民間企業などに受信機

を設置することは可能でしょうか。また、それは国や県の補助対象となりうるのですか。それから、地震が起こった後の医療体制の整備についてはどう進めていくのですか。

質問—国道一号線の富士川橋について、地震防災対策と交通渋滞の解消という両面から、架替えを陳情してきましたが、その後の対応はどうなっているのですか。



私たちがみんなで楽しい児童館にしようね

子どもたちは遊びを通して体をきたえ、言葉を覚え、数をかぞえ、絵を描き、友だちと交わることによって対人関係のルールを身につけていくものです。子どもにとって遊びは、

性格形成をはじめ、心身の発達に大きな影響をおよぼす「成長の糧」といえます。

こんな

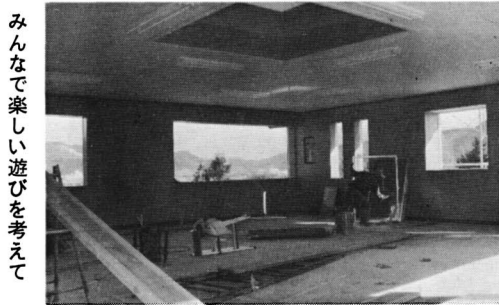
児童館に

灰田豊美ちゃん



今は友だちとマラソンなんかやるのが一番楽しいけど、児童館ができたら友だちと勉強なんかやりに行きたいです。児童館では映画や人形劇をやってもらいたいし、おじいちゃんやおばあちゃんに、わらぞうりやおかざりの作り方を教えてもらいたいです。

児童館増築工事は、昨年の10月21日から約三千六百五十四万円をかけ着手したものです。工事内容は、既設の老人憩いの家・小車荘（鉄筋コンクリート造り平屋建）に鉄骨造りの二階部分を増築し、そこに児童館を併設したものです。増築部分の床面積は約二百五十九平方メートル、約八十五平方メートルの遊戯室や約六十九平方メートルの図書室兼集会室、その他に事務室、湯沸し室、トイレなどを備え、2月20日に完成予定です。



みんなで楽しい遊びを考えて



二階からの眺めはバツグン

子どもたち全員集合

2月12日 撮影



二階の正面には事務室が



勉強や話し合いの場

今年の目標 笑顔でまごころをこめて

昨年まで五年連続した町の目標「きれいな町にしましょう」により、私たちの中に環境美化運動が十分に浸透したため、本年は新に精神面の美化を訴える標語にしよう、みなさんから標語募集を行った結果、1月14日の締切日までに三十九人（男二十六人、女十三人）から合計六十五点の作品が集まりました。そこで1月27日「今年の目標実行委員会（会長―常葉町長）」を開き、みなさんからの作品を審査した結果、予想される東海地震に対処するため、各地区で結成されている自主防災組織の

輸送路の整備というところで、落橋防止処置はしてあります。しかし橋自体が老朽化しているため、再度見直すというところで、現在調査を実施しています。

より一層の充実をも含めたコミュニケーションづくりを進めていく標語にピッタリと、桐谷定雄さん（本通り四）の「笑顔であいさつ明るい町に」に決定しました。

二階の正面には事務室が

勉強や話し合いの場



# 戸籍の窓

56・1・1}1・31届出

(敬称略)

## おめでた

区名 出生児 保護者続柄  
 小山 太田 明仁 仁 三男  
 加藤 紀行 勝行 長男  
 清水 智美 守 長女  
 相生町 清水 智美 守 長女

堺町 渡邊美奈子 陸章 長女  
 新町 渡邊 潤一 洋幸 長男  
 小池 佐藤 将彦 忠宏 長男  
 本通四 小林 利弘 智 二男  
 東町二 西垣 絵美 賢二 長女  
 南町一 渡辺 晴香 貢 長女  
 富士見町神野 恵 浩久 長女  
 鍵穴 平野 美緒 武芳 二女

## かなしみ

八幡町 小澤 典子 邦雄 長女  
 大北町 宇佐美公三 正弘 三男  
 区名 氏名 年齢  
 小山 植松 隆男 五六  
 川坂 渡邊徳次郎 九二  
 南町一 望月さと子 六九  
 富士見町小林 秀作 八五  
 清水町 宇佐美志司 七一  
 大北町 吉田 志か 八六

## おかあさんの

### “知恵袋”

最近訪問販売に関するトラブル

をよく聞く。その原因は商法の巧妙さ、消費者の知識不足などさまざまだが、私はやはり消費者の特殊販売に関する知識不足が多分にあると思う。

過日、庵原三町合同消費者研修会に参加した直後のこと、ペーパーテストを持ったセールスマンが来訪した。確かに見覚えのあるテスト用紙ではあった。戸惑う私が聞く間もなく、セールスマンの説明によると、下校時の子どもを校門前で待ち、教育用具やテスト用紙を配り、解答したら家の人に住所・氏名を書いてもらい、翌日指定の箱に入れておくと賞状をあげる、オマケもつけてと子どもに手渡したものであった。

家人と交渉する前に子どもを口説く方法だった。欲しがると子どもを目前に、セールスマンは執拗だった。でも、家の子には使いこなせる教育用具ではなかった。説明を聞きながら研修した時の知識が私を冷静にする。そして断った。女関を去るセールスマンの背に、多種多様な商品に対して損をしない買い方をするよう「確な目」を養わなければと痛感した。

1月詠草(天野寛選)

# 富士川短歌会

本通り 高橋 勝治  
 しらさぎの群のかなたより光さす  
 赤き日の出の新玉の年  
 本通り 長橋 安子  
 別れよりはるかとなれば忘れあし  
 友が雪かく初夢を見し  
 上町 水口 大礼  
 千両の色づく頃となりぬれば来りし人に分けて与ふなり  
 四十九 辻 すみじ  
 薬師堂の木々は大方紅葉して木の間に見ゆるひろき青空  
 四十九 塩川 恒子  
 伐採の枝燃やすらし青白き煙はみかんの山肌をはう  
 上町 斎藤 典子  
 幼らの寝息きこゆる枕辺に戦を手当し今日も終りぬ  
 宮町 若月 幸江  
 寒ざむと向いし山に声ふるう朝の鴉に病む人気づかう  
 宮町 荻野 敏音  
 嫁ぐ日の迫る娘のもやす薪はねる音聞く風呂に入りつつ  
 相生町 長谷川ゆり子  
 大雪に死を聞く夜はくだちつつ陶器の椅子に寒の月照る  
 旭町 吉田 令子  
 命日は師走二十九日祖父の墓低く水仙群なして咲く

## 一里塚



## アンビバレンス

■向田邦子著「無名仮名人名簿」に「白か黒か」というエッセイがある。この本を読んでいくうちにふと思いついたようにここを繰り返して読んでいた。

「好きかといえは好きでない。

嫌いかわいければそうでもない好きでいて嫌い。嫌いなくせに好き。善かといえは丸つきり善でない。では悪かと聞かれるとあながち悪とはいえない——」

どうもこのところが私自身にもあるなと思えるからである。

■最近の新聞に、生徒が先生に暴力を奮ったとか、子どもが親をバットで殴るといった記事が続けて

載っていた。この行為は悪い、と思うのだが、もう一つ絶対に悪いと言いつつ切れない。生徒や子どもにとつてその行動が自分の総てであったなら、それでも良いのではないかと認めてしまふ。

妻に言わせると、最近では考えが左へいたり、右へいたりどうも節操がないとのことだ。(遊びのこと仕事のことどつちも多分にもれず中途半端である)

試験の答案用紙に○×を付けるように物事を処理できないのはどうしたことだろう。結論を出さずにいたずらに時をかき、その内にうやむやにしてしまふ。物事から遠ざかって知らん振りをしてそのままにしてしまっている。

年のせいかな、それとも太り過ぎて体調不全のせいかな、妙に総てが面倒臭くてしょうがない。

## 編集後記

■何んでも曖昧にしてしまふ自分ではあるが、このはつきりしないどつちも決めかねる性格が別にどうとも思われなくなっている近頃である。(人)

春一番——という言葉を聞くとやれやれ、どうやらこれで冬も終りかとホッとするような気分になるものだが、実はこの言葉、もと九州の漁師たちの間で海が荒れるから気をつけるようにという「注意信号」だったようだ。ちなみに春一番の「宣言」を出す気象庁予報部によると、毎年2月22日前後に吹くことが多いという。

私の頭の中にも早く「春一番」が吹き荒れ、広報「ふじかわ」3月号には、盛りだくさんの新しい企画を掲載したいものだ。

新町本町 深沢美智子